

名古屋市中心地区（名駅・栄地区）の 宿泊施設需給予測

～インバウンド需要取り込み施策の強化を～

<要旨>

2015年に訪日外国人数は1,974万人と2020年における政府の当初目標を略達成し、2016年は過去最高の約2,400万人に達する見通しである。今後も成長戦略の柱として、2020年：3,000万人、2030年：4,000万人と新たな目標を掲げ、官民連携してインバウンド振興に取り組んでいるところであるが、今後は東京・大阪のみならず、いかに地方圏が受け皿になるかが課題であり、その中でもゴールデンルートの中央に位置し、観光資源や交通インフラにも恵まれている東海地方に対する期待は大きい。

インバウンド振興にあたっては、魅力的な観光資源の磨き上げや通信環境の整備等と並び、宿泊施設の質・量両面での充実も欠かせない要件である。東海地方の観光・ビジネス双方における拠点である名古屋市内の2014年の延べ宿泊者数は、約752万人、そのうち外国人宿泊者数は約85万人と推計され、定員稼働率は約69%と東京並みの水準となっており、旺盛な需要を見込んで、2020年に向けて多くのホテルの開業が予定されている。

今回、宿泊施設の集積エリアである名古屋駅前・栄地区に焦点を当て、想定収容人数並びに目的別延べ宿泊者人数から、2020年並びに2030年時点における当該地区の宿泊需要の推計を行ったが、就業人口の減少等に起因するビジネス宿泊需要の減少と、名古屋駅前・栄地区に集中するホテルの開業を背景に、2030年において、仮に外国人延べ宿泊者数が政府目標と同水準の現行比3倍となった場合でも、定員稼働率は略現行並みの水準に留まると思われる。

もっとも、上記想定では、現在約7割を占めるビジネス宿泊需要が約5割に低下し、外国人比率が約3割を占めるほど拡大する等、顧客構成が大きく変容することから、定員稼働率が現行並みであっても、国内外を問わず多様化・細分化・高度化する顧客ニーズに対しどのように備え、対応していくか、という事業者単位の取組みのスピードと巧拙は、今まで以上に問われることが見込まれる。

また、質的な側面では、名古屋駅前・栄地区には従来より高級ラグジュアリーホテル（機能）の不足が課題として挙げられてきたが、今後観光面で海外の富裕層、ビジネス面でハイエンドのビジネス層等、多様化・高度化するニーズへの対応を当該地区が担うためにも、こうした施設（機能）の充実は、今まで以上により一層求められる。

目次

I. 名古屋市の宿泊施設と宿泊客動向	2
II. 名古屋市中心地区(名駅・栄)の宿泊施設	4
(1) 名古屋駅前・伏見・丸の内地区の宿泊施設と宿泊客動向 ...	5
(2) 栄・錦・名古屋城地区の宿泊施設と宿泊客動向	6
(3) 名古屋市中心地区(名駅・栄)の宿泊施設(まとめ)	7
(4) 名古屋市中心地区(名駅・栄)の宿泊施設の供給動向	8
(5) 宿泊動向の需給予測	9
III. 名古屋市中心地区の宿泊施設の課題	15
(1) 名古屋市中心地区の海外OTAによるホテル評価	16
(2) 海外ブランドホテルの展開状況	17
(3) 名古屋市中心地区の宿泊施設の課題(まとめ)	18
(参考)	
・都道府県別の客室稼働率と定員稼働率	20
・『東海地方インバウンド調査』につきまして	21

I. 名古屋市の宿泊施設と宿泊客動向

【名古屋市の宿泊客動向】

- ・名古屋市内の平成26年度の全施設の年間総延べ宿泊者数は**約752万人泊**であり、登録ホテル(15)が約181万人泊、登録ホテルを除くホテル(113)が約557万人泊、旅館(32)が約14万人泊となっている。
- ・外国人延べ宿泊者数は**約85万人泊**であり、実人数換算での比率は約9.5%となっている(外国人実人数約56万人／総実人数約586万人)。
- ・外国人延べ宿泊者数の約45%(約39万人)が登録ホテル(15)に宿泊しており、旅館に宿泊した延べ外国人宿泊者数は0.2%に過ぎない。
- ・名古屋市内の年間延べ宿泊者数は、過去5年間で約596万人泊(平成22年度)から約752万人泊(平成26年度)と約150万人泊以上増加し、年間の定員稼働率も57.3%(平成22年度)から68.6%と大きく上昇している。
- ・年間延べ外国人宿泊者数については、過去5年間で約61万人泊(平成22年度)から約85万人泊(平成26年度)と約24万人増加している。

年間宿泊者数(推計値)

		全施設の年間 総延べ宿泊者数	うち全施設の 年間外国人 総延べ宿泊者数	全施設の 年間総実人数	うち全施設の 年間外国人 総実人数
		(人泊)	(人泊)	(人)	(人)
登録ホテル		1,807,281	388,565	1,378,955	233,139
ホテル (登録ホテル を除く)	200室以上	3,011,420	295,119	2,499,479	214,552
	100室以上200室未満	1,744,404	127,341	1,292,603	84,554
	50室以上100室未満	710,201	29,828	525,549	19,418
	50室未満	103,191	5,882	78,116	3,570
計		5,569,216	458,170	4,395,747	322,094
旅館		146,505	2,344	81,017	1,362
全体		7,523,002	849,079	5,855,719	556,595

出典:「名古屋市観光客・宿泊客動向調査(平成26年度)」名古屋市市民経済局より
登録ホテル:国際観光ホテル整備法に基づくホテル

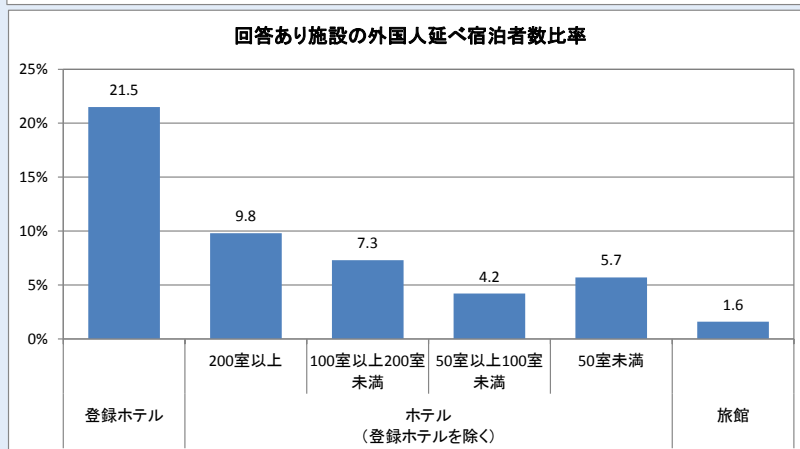
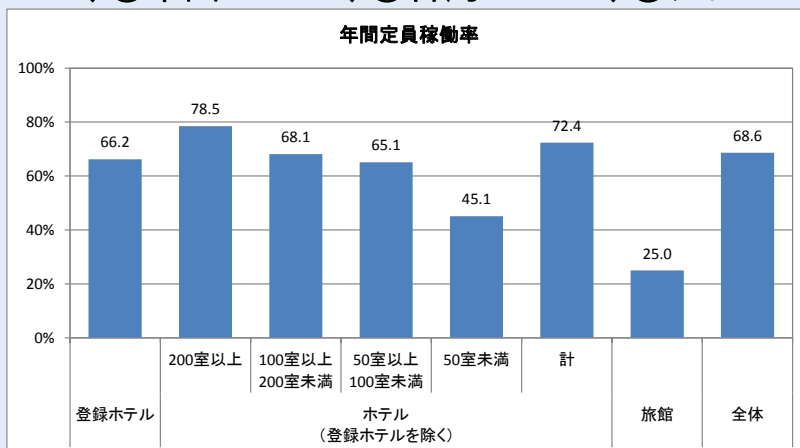
年間宿泊者数及び年間定員稼働率の推移(推計値)

区分	年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
年間総実人数(人)		4,608,978	5,192,149	5,796,736	5,979,400	5,855,719
	うち外国人	396,508	271,884	482,571	570,030	556,595
年間総延べ宿泊者数(人泊)		5,960,567	6,674,019	6,950,791	7,509,115	7,523,002
	うち外国人	609,400	441,255	606,148	839,550	849,079
年間定員稼働率(%)		57.3	62.1	63.2	67.8	68.6

出典:「名古屋市観光客・宿泊客動向調査(平成26年度)」名古屋市市民経済局より

I. 名古屋市の宿泊施設と宿泊客動向

- ・定員稼働率ではホテル(登録ホテルを除く)200室以上:78.5%、同100室以上200室未満:68.1%、登録ホテル:66.2%と概ね約7～8割の水準となっている。
- ・(登録ホテルを除く)200室以上のホテルには、ビジネスホテルが含まれていることから、稼働率の引き上げに寄与したものと思われる。
- ・他方、ホテル(登録ホテルを除く)50室未満:45.1%、旅館:25%となっており、小規模宿泊施設の定員稼働率は総じて低水準。
- ・外国人比率では登録ホテル:21.5%と突出しており、以下、ホテル(登録ホテルを除く)200室以上:9.8%、同100室以上200室未満:7.3%である。
- ・50室未満の宿泊施設の外国人比率は5.7%と50室以上100室未満の水準(4.2%)を上回っている。
- ・国籍については、①中国:26.9%、②台湾:19.4%、③タイ:13.5%となっている。



出典:「名古屋市観光客・宿泊客動向調査(平成26年度)」名古屋市市民経済局より作成

Ⅱ. 名古屋市中心地区（名駅・栄）の宿泊施設

【当該地区の概要】

- ・本調査では名古屋市内の宿泊施設の集積エリアである、
 - ①名古屋駅前・伏見・丸の内(下記青エリア)
 - ②栄・錦・名古屋城(下記赤エリア)
 の2エリアに焦点を当てて、分析を加えた。
- ・エリア内の宿泊施設の絞り込みにあたっては各種宿泊サイトの地区別の検索区分を参考とし、登録ホテル、登録ホテル以外のホテル、旅館やカプセルホテル等も対象としている。
- ・その結果、名古屋駅前、伏見、丸の内地区では87軒、栄、錦、名古屋城地区では48軒の宿泊施設が対象となった。
- ・尚、名古屋市内の登録ホテル(15)のうち、11ホテルが今回の対象エリア内に含まれている(残る4ホテルは金山・熱田・千種・ナゴヤドーム地区)。



出典: (C) Esri Japan

Ⅱ. (1) 名古屋駅前・伏見・丸の内地区の宿泊施設と宿泊客動向

【名古屋駅前・伏見・丸の内地区の宿泊施設】

・当該地区の宿泊施設は全87軒。

・部屋数上位では、①名古屋マリオットアソシアホテル、②名古屋クラウンホテル、③ヒルトン名古屋、④チサンイン名古屋、⑤名古屋観光ホテル、と500室を超えるホテルを含め、外資系を含めたシティホテルが中心で構成されている。

・各宿泊施設の部屋数等から推計した当該地区の平成26年度の想定年間定員数は621万人。

これに対し、平成26年度の推計延べ宿泊者数は434万人(うち外国人50万人)、定員稼働率は約70%となった。

	軒数	想定年間定員数 (万人)	推計延べ宿泊者数 (万人、平成26年)	定員稼働率(%)	推計延べ外国人宿泊者数 (万人、平成26年)
200室以上	26	377	276	73.2	40
100室以上 200室未満	24	153	104	68.0	8
50室以上 100室未満	20	71	46	64.8	2
50室未満	17	20	8	40.0	0
合計	87	621	434	69.9	50

(出典)各種予約サイト、各社HP、「名古屋市観光客・宿泊客動向調査(平成26年度)」名古屋市市民経済局より作成

Ⅱ. (2) 栄・錦・名古屋城地区の宿泊施設と宿泊客動向

【栄・錦・名古屋城地区の宿泊施設】

・当該地区の宿泊施設は全**48**軒。

・部屋数上位では、①名古屋東急ホテル、②アパホテル名古屋栄、③サウナ&カプセルフジ栄、④名古屋栄ワシントンホテルプラザ、⑤東横イン栄等、ビジネスホテル中心の構成となっている。

・各宿泊施設の部屋数等から推計した、当該地区の平成26年度の想定年間定員数は**372**万人。

これに対し、平成26年度の推計延べ宿泊者数は**268**万人(うち外国人**27**万人)、定員稼働率は**72%**となった。

	軒数	想定年間定員数 (万人)	推計延べ宿泊者数 (万人、平成26年)	定員稼働率(%)	推計延べ外国人宿泊者数 (万人、平成26年)
200室以上	17	218	166	76.1	19
100室以上 200室未満	17	120	82	68.3	7
50室以上 100室未満	7	26	17	65.3	1
50室未満	7	8	3	37.5	0
合計	48	372	268	72.0	27

(出典)各種予約サイト、各社HP、「名古屋市観光客・宿泊客動向調査(平成26年度)」名古屋市市民経済局より作成

Ⅱ.(3)名古屋市中心地区(名駅・栄)の宿泊施設(まとめ)

【名古屋市中心地区の想定年間定員数及び延べ宿泊者数(日本人／外国人)】

	軒数	想定年間定員数 (万人)	推計 延べ宿泊者数 (万人)	推計日本人 延べ宿泊者数 (万人)	推計外国人 延べ宿泊者数 (万人)	定員稼働率 (%)
名古屋駅前・伏見・丸の内地区	87	621	434	384	50	69.9
栄・錦・名古屋城地区	48	372	268	241	27	72.0
合計	135	993	702	625	77	70.7
(参考) 名古屋市観光客・宿泊客動向調査 (平成26年度)	160	—	752	667	85	68.6

- ・名古屋市中心地区の想定年間定員数は**993万人**であり、これに対し平成26年度の推計延べ宿泊者数は**702万人**(うち日本人**625万人**、外国人**77万人**)であり、定員稼働率は**70.7%**と類推される。
- ・名古屋市の宿泊施設に占める中心地区は約2km圏に集中し、且つ市内におけるシェアは極めて高いことが類推される。

Ⅱ. (4) 名古屋市中心地区（名駅・栄）の宿泊施設の供給動向

【名古屋市中心地区の宿泊施設の供給見通し】

・各種報道等によると、2020年までに名古屋市内で、少なくとも20のホテルが開業し、2,000室以上が供給される見込みと言われているが、以下の通り開業ラッシュが見込まれる。

(当該地区の主な開業予定宿泊施設)

	地区	開業予定	室数(予定)
ジャストインプレミアム名古屋駅	丸の内	2017年3月25日	181
名古屋JRゲートタワーホテル	名駅	2017年4月17日	350
ホテルビスタ名古屋錦	栄	2017年夏	143
アパホテル(名古屋栄駅北)	栄	2017年11月	350
プリンスホテル	名駅	2017年秋	170
くれたけインプレミアム名古屋納屋橋	名駅	2017年秋	166
ホテルウィングインターナショナル名古屋栄	栄	2017年末	120
くれたけイン名古屋久屋大通	栄	2018年3月	229
名古屋錦2丁目ホテル(コンフォートホテル)	栄	2018年春	160
西鉄イン クルーム名古屋(仮称)	栄	2018年夏	242

(出典)各種新聞、各社HP等より作成



・上記以外にも、東横イン名古屋名駅南ビル(2017年夏)、ホテルリブマックス名駅(2017年夏)、ホテルリブマックス名古屋栄アネックス(2017年秋)、Lamplight Books HOTEL(2017年秋)、セントラルパーク HOTEL(2017年末)、ビジネスホテル／新名古屋ミュージカル劇場跡地(2018年春)、中村区椿町プロジェクト／ホテルヴィアイン(2018年夏)、ベッセルイン名古屋錦三丁目(2019年秋)が開業予定の見込み。

Ⅱ. (5) 宿泊動向の需給予測（前提条件）

以下を前提として、
2020年・2030年の名古屋市中心地区の宿泊施設需給を推計

【国内需要】

・日本人延べ宿泊者数のうち、ビジネス宿泊需要と観光宿泊需要の比率は、ヒアリング等も踏まえ弊社が推計。

ビジネス宿泊需要(ビジネス客)に関しては、生産年齢人口の減少に比例し減少すると見込む。

観光宿泊需要(観光客)については、アクティブシニア層の人口増等の要因はあるものの、今回は横ばい。

【インバウンド需要】

・ケースA【2020年】

UNWTOが想定している北東アジアでの来客数成長率(2010年～2020年: 5.7%/年)を採用

・ケースB【2020年】

2020年の政府目標(4,000万人)を採用(現行の2倍)

・ケースC【2030年】

2030年の政府目標(6,000万人)を採用(現行の3倍)

【宿泊施設供給】

・ホテル客室数: 新聞報道等により、2020年までに3,000室の供給を見込む(その後は横ばい)。

人数/室: 1.27と想定(2014年並み)

⇒ 139万人泊/年の供給量と置く。

Ⅱ. (5) 宿泊動向の需給予測

【ケースA～2020年】

- ・供給(年間定員数):1,132万人泊に対し、需要(延べ宿泊者数):705万人泊となり、定員稼働率は62.3%に。2015年時点の定員稼働率(都道府県単位)で60%超えは大阪・東京のみであり、相対的には高水準だが、名古屋市中心地区の現状からは約8ポイント程度低下。
- ・インバウンド需要の増加とビジネス宿泊需要の減少が相殺され、全体の需要が横ばいで推移する状況下、宿泊施設単位での競争は一層激化する可能性がある。定員稼働率62%もあくまで平均値であり、築年数が古い／改装が未済等、対応が相対的に遅れている事業者は、厳しい環境が予想される。

	①年間定員数 (万人)	②延べ宿泊者数 (万人) ④+⑤	③定員稼働率 (%) ②/①	④日本人 延べ宿泊者数 (万人)	うちビジネス客 (万人)	うち観光客 (万人)	⑤外国人 延べ宿泊者数 (万人)	⑥外国人 比率 (%) ⑤/②
現行水準	993	702	70.7	625	470	155	77	11.0
需要増減	—	3	—	▲27	▲27	±0	+30	—
供給増	+139							
結果	1,132	705	62.3	598	443	155	107	15.2
供給増なし*	993	705	71.0	—	—	—	—	—

* 仮に139万人泊の供給がなかった場合の試算

Ⅱ. (5) 宿泊動向の需給予測

【ケースB～2020年】

- ・供給(年間定員数):1,132万人泊に対し、需要(延べ宿泊者数):752万人泊となり、定員稼働率は66.4%に。定員稼働率60%台後半は、2015年時点(都道府県単位)の東京並み水準であるが、139万人の供給の影響は大きく、名古屋市中心地区の現状からは約4ポイント程度低下。
- ・地区全体では需要増になるものの、インバウンド需要にのみ依拠し、外国人比率が現状の約2倍になることから、(現状、外国人比率が高い)大規模ホテル(200室以上)に集中することが見込まれ、これらのホテルのインバウンド対応(情報発信、滞在時のサービス等)の巧拙が、個々の業績を左右することになると思われる。

	①年間定員数 (万人)	②延べ宿泊者数 (万人) ④+⑤	③定員稼働率 (%) ②/①	④日本人 延べ宿泊者数 (万人)	うちビジネス客 (万人)	うち観光客 (万人)	⑤外国人 延べ宿泊者数 (万人)	⑥外国人 比率 (%) ⑤/②
現行水準	993	702	70.7	625	470	155	77	11.0
需要増減	—	+50	—	▲27	▲27	±0	+77	—
供給増	+139							
結果	1,132	752	66.4	598	443	155	154	20.5
供給増なし*	993	752	75.7	—	—	—	—	—

* 仮に139万人泊の供給がなかった場合の試算

Ⅱ. (5) 宿泊動向の需給予測

【ケースC～2030年】

- ・供給(年間定員数):1,132万人泊に対し、需要(延べ宿泊者数):795万人泊となり、定員稼働率は70.2%に。定員稼働率70%台は2015年時点(都道府県単位)では大阪のみであり、名古屋市中心地区の現状水準と略同水準。
- ・インバウンド需要が現行の略3倍になったとしても、ビジネス宿泊需要の落ち込みと供給増を背景に、定員稼働率は略現行並みの水準。但し、外国人比率は3割弱に上昇し、市場構造としては大きく変容していることから、多様化・細分化・高度化するインバウンド需要へのきめ細かな対応が求められる。

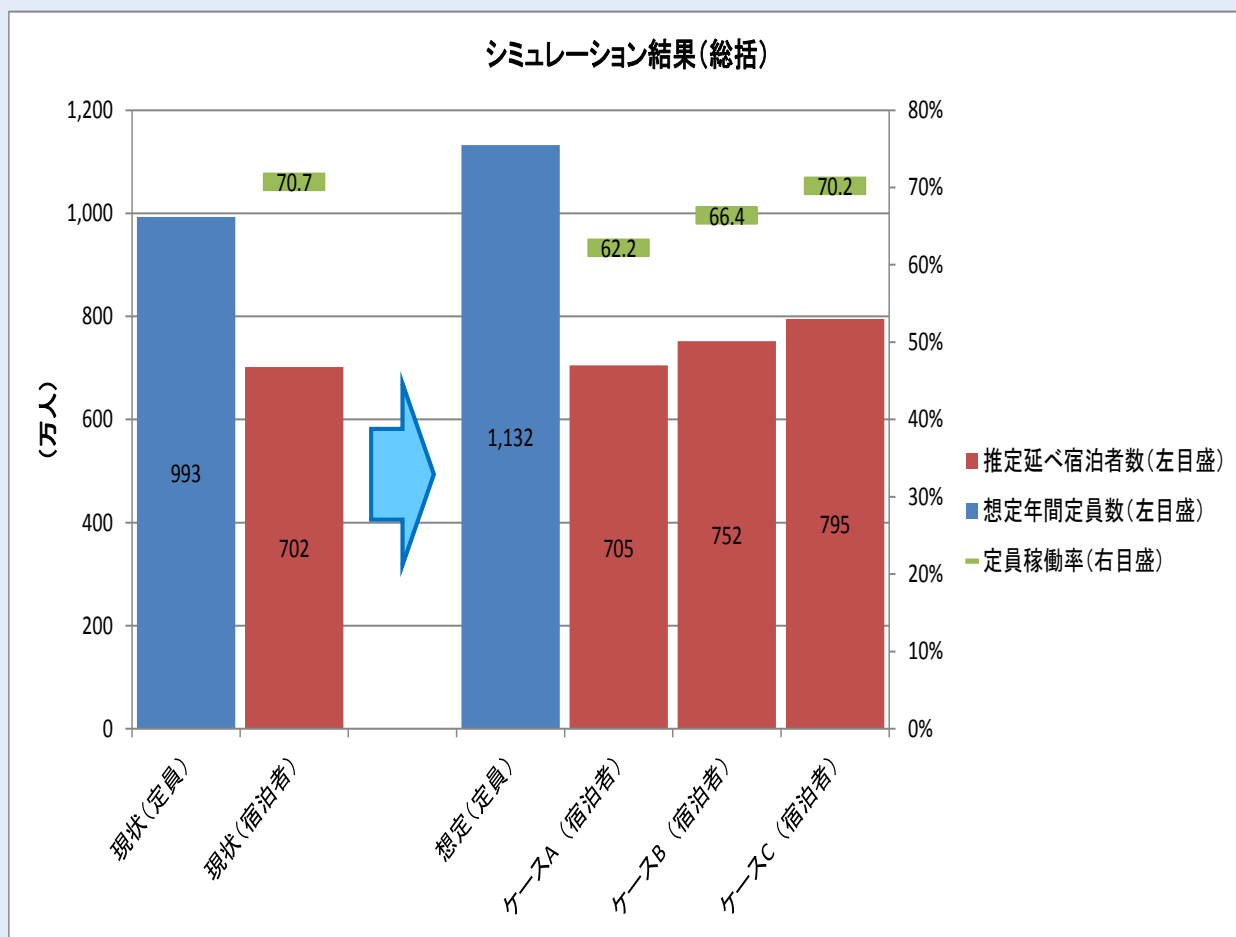
	①年間定員数 (万人)	②延べ宿泊者数 (万人) ④+⑤	③定員稼働率 (%) ②/①	④日本人 延べ宿泊者数 (万人)	うちビジネス客 (万人)	うち観光客 (万人)	⑤外国人 延べ宿泊者数 (万人)	⑥外国人 比率 (%) ⑤/②
現行水準	993	702	70.7	625	470	155	77	11.0
需要増減	—	+93	—	▲61	▲61	±0	+154	—
供給増	+139							
結果	1,132	795	70.2	564	409	155	231	29.1
供給増なし*	993	795	80.0	—	—	—	—	—

* 仮に139万人泊の供給がなかった場合の試算

Ⅱ. (5) 宿泊動向の需給予測 (まとめ)

【まとめ①】

- ・供給増(+139万人)と就業人口の減少を背景とするビジネス宿泊需要の落ち込みにより、2020年の需給環境は、現行水準よりむしろやや緩和される見通し(ケースA及びB)。
- ・2030年の前提条件(外国人が現状比3倍)であっても、上記要因により、定員稼働率は現状並みに留まる見通し(ケースC)であり、名古屋市中心地区の宿泊需給に関しては、これ以上過熱感が出る状況に至らないと思われる。

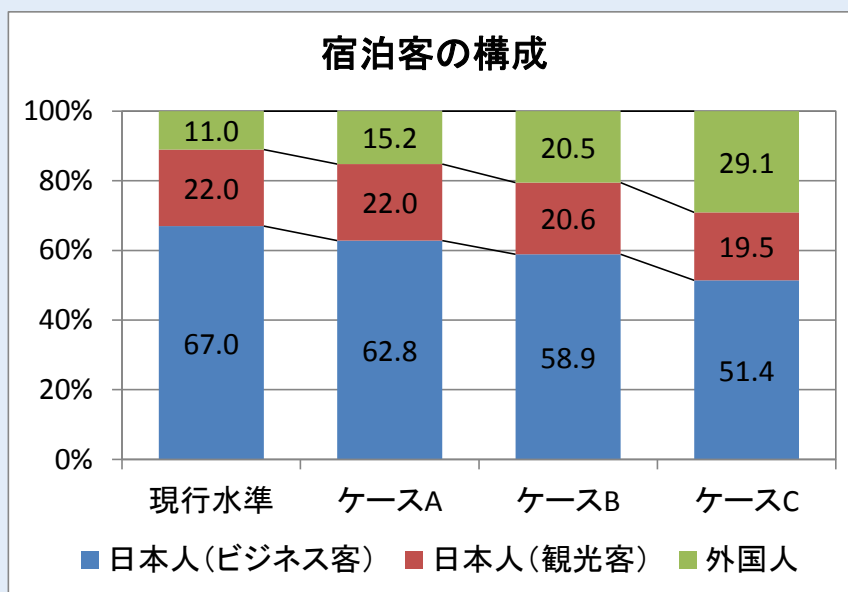


Ⅱ. (5) 宿泊動向の需給予測 (まとめ)

【まとめ②】

- ・しかしながら、以下の通り、市場構造は大きく変容する可能性が大きく、これまでの国内ビジネス需要の取り込みが中心の対応から、多様化・細分化・高度化する国内外の顧客ニーズをいかに先取りするか、個々の事業者の柔軟な戦略が一層求められる。
- ・いずれのケースでも示された相対的に高い定員稼働率は、あくまで平均値であり、競争激化に伴い、今後更に2極化する虞も否定できないと思われる。

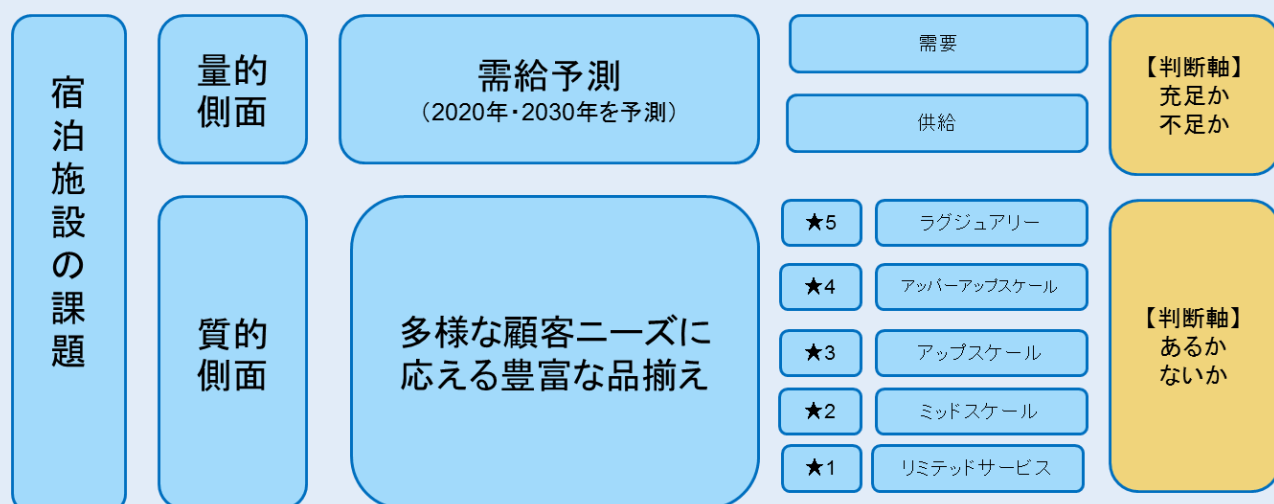
	①延べ宿泊者数	②日本人ビジネス客宿泊者数(万人)	同左比率(%)	③日本人観光客宿泊者数(万人)	同左比率(%)	④外国人宿泊者数(万人)	同左比率(%)
現行水準	702	470	67.0	155	22.0	77	11.0
ケースA	705	443	62.8	155	22.0	107	15.2
ケースB	752	443	58.9	155	20.6	154	20.5
ケースC	795	409	51.4	155	19.5	231	29.1



Ⅲ. 名古屋市中心地区の宿泊施設の課題

○名古屋市中心地区の宿泊施設の課題としては、前述した需給予測から考察される量的な側面に加え、『質的』な側面での検討も併せて必要となる。

○量的側面では需給予測を通じた「充足か・不足か」が判断軸になるのに対し、質的側面では多様な顧客ニーズに対応する品揃えが当該地区に「あるか・ないか」が判断軸として問われることになる。



Ⅲ. (1) 名古屋市中心地区の海外OTAによるホテル評価

〇インバウンドのFIT化が進行する中、主要海外OTAにおける名古屋市内の宿泊施設の評価は以下の通りであり、比較的名古屋駅前・伏見・丸の内地区に集中している。

【海外OTA3社における名古屋市中心地区の宿泊施設ホテル評価】

	agoda	Expedia (名古屋に 評価5なし)	Tripadvisor (最高4)
名古屋マリオットアソシアホテル 名古屋駅前・伏見・丸の内	5	4.5	4
名古屋東急ホテル 栄・錦・名古屋城	5	4	4
ストリングスホテル名古屋 名古屋駅前・伏見・丸の内	5	4	4
名鉄グランドホテル 名古屋駅前・伏見・丸の内	5		
ヒルトン名古屋 名古屋駅前・伏見・丸の内	5	4.5	4
三井ガーデンホテル名古屋プレミア 名古屋駅前・伏見・丸の内		4	4
ウェスティン名古屋キャッスル 栄・錦・名古屋城		4	4
名古屋観光ホテル 名古屋駅前・伏見・丸の内		4	4
ザ・サイプレスメルキュールホテル名古屋 名古屋駅前・伏見・丸の内		4	4
ベストウェスタンホテル名古屋 栄・錦・名古屋城		4	4

(出典)各HP等から検索(2016/11/22時点)

Ⅲ. (2) 海外ブランドホテルの展開状況

○しかしながら、名古屋市中心地区内には、所謂『5★』クラスと言われる海外ブランドのラグジュアリーホテルが、東京・大阪はもとより、他の地方都市との比較に置いても少ないと言われており、今後の顧客層の拡大を展望した場合、ハイエンドな顧客層の受け入れ余力には限界があると言われている。

【外資系ラグジュアリーホテルの日本での展開(2016年11月時点)】

	東京	大阪	京都	福岡	名古屋
グランドハイアット	○	—	—	○	—
パークハイアット	○	—	—	—	—
ザ・リッツ・カールトン	○	○	○	—	—
フォーシーズンズ	○	—	○	—	—
シャングリ・ラ	○	—	—	—	—
ザ・ペニンシュラ	○	—	—	—	—
ザ・マンダリン	○	—	—	—	—

(出典)各社HP等から作成

【名古屋市内中心地区の宿泊施設における主なスイートルーム所有施設(5室以上)】

ホテル数	部屋数合計
6(名駅地区:3、栄地区:3)	68

(出典)各社HP等から作成

Ⅲ. (3) 名古屋市中心地区の宿泊施設の課題（まとめ）

【1】ビジネス宿泊需要の減少可能性

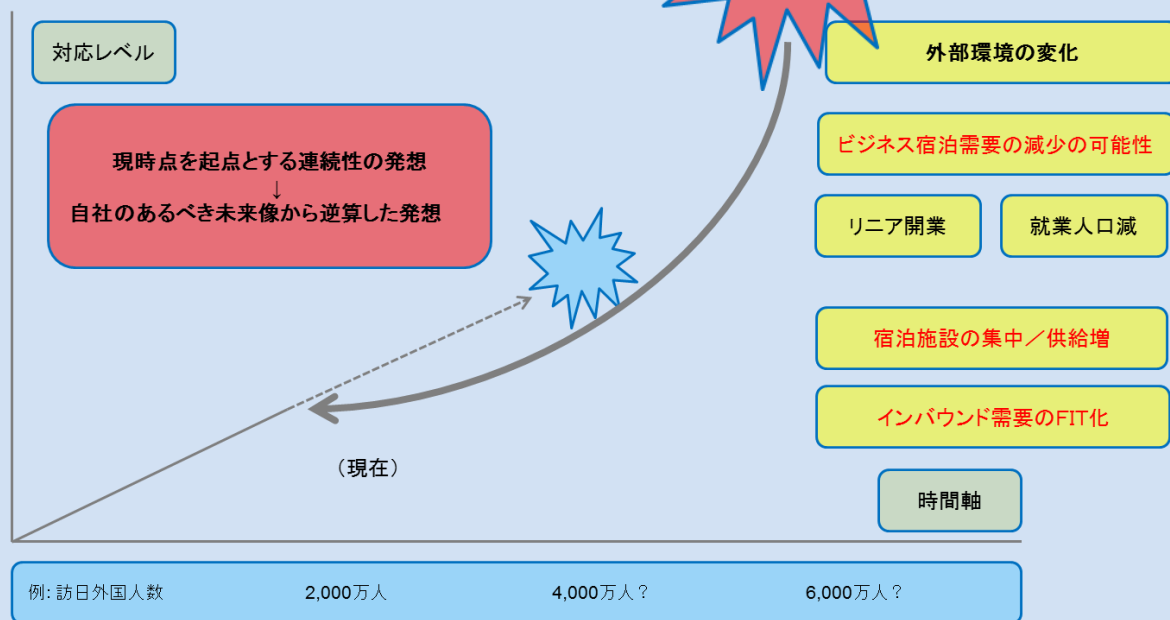
- 就業人口減少、リニア開業に伴う宿泊出張機会の減少
- (国内) 固定層獲得に向けたきめ細かいサービスの継続提供／新たな観光客層の取り込み
- (国外) 将来の市場構造を展望したインバウンド需要取り込み施策着手

【2】ラグジュアリーホテル(機能)の不足

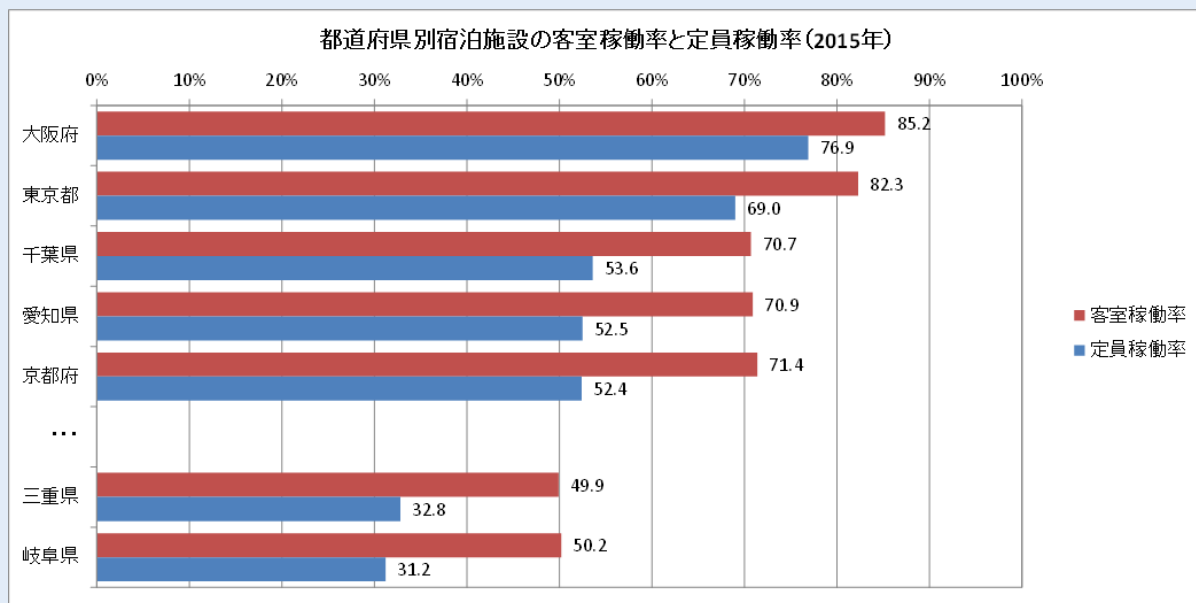
- 都市ブランドの世界的な発信というプロモーション上も重要な課題
- **2019ラグビーW杯、2026アジア大会等のグローバルイベントを見据えた対応検討**

Ⅲ. (3) 名古屋市中心地区の宿泊施設の課題（まとめ）

【環境変化への対応】



参考／都道府県別の客室稼働率と定員稼働率



(出典)「平成28年版観光白書」より作成

○客室稼働率とは、総客室数に対する利用客室数の割合を計算したものであり、総客室数2室のうち1室を利用した場合、客室稼働率は50%となる(①大阪85.2%、②東京82.3%、③京都71.4%、④愛知70.9%)。

○定員稼働率とは、総客室定員数に対する宿泊者数の割合を計算したものであり、定員2名の客室に1名が宿泊した場合、定員稼働率は50%となる(①大阪76.9%、②東京69.0%、③千葉53.6%、④愛知52.5%)。

参考／『東海地方インバウンド調査』につきまして

○今回の『名古屋市中心地区(名駅・栄地区)の宿泊施設需給予測』は、平成29年3月を目途に発表する予定の「東海地方インバウンド調査」の一部となります。

○『東海地方インバウンド調査』

Ⅰ.インバウンド観光の現状整理

Ⅱ.宿泊施設の需給予測
(中部地方／東海3県／名古屋市中心地区)

【今回報告部分】

Ⅲ.産業観光

Ⅳ.インバウンド活性化に向けた検討

©Development Bank of Japan Inc. 2016

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。

本資料のご利用に際しましては、ご自身のご判断でなされますようお願い致します。本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡下さい。著作権法の定めに従い引用・転載・複製する際には、必ず、『出所：日本政策投資銀行』と明記して下さい。

（お問い合わせ先）

（株）日本政策投資銀行 東海支店 担当：企画調査課 TEL：052-589-6893